

置酒柏退出

〔儀式〕四踐祚大嘗祭儀

次神祇官中臣忌部及小齋侍從以下番上以上、左右分入造酒司、人別賜柏、即受酒而飲訖、以柏爲鬘而和舞。

〔延喜式〕伊勢大神宮六月月次祭准此十二月

次察允以上一人、酒立女一人、持柏一人、持酒、

〔延喜式〕踐祚大嘗祭卯日一〇月十平明、神祇官班幣帛於諸神、中次神服女五十人分在左右、青摺衣、日

各執酒柏、以弓絃葉、插白竿、四重、重別四枚。

〔夫木和歌抄〕二十九神祇歌中人家

むかしたれみつのかしはのさかづきをあまてる神にたむけそめけん

度會仲房

〔明德記〕下抑當宮ノ祭禮ハ、四季ノ奉幣ノ使トテ、都ヨリ勅使下向シテ神事ヲ勤メ、其外月次日次

ノ神事トテ退轉無物也、其二見ノ浦ノ所司等、皆和布ヲ取テ神前ニ備、又三角ノカシハノ盃ト

テ、二見ノ東ナルサ、ヲ島ト云所ニテ、柏ノ葉ヲ取事アリ、譬ヘバ此島ケンソニシテ陸地ヨリ通

路無間、高鹽ノ絶タル時、此島ノ陰ニ船ヲ浮メテ、此柏ノ葉ヲ浪ノ上ヘ蒞落ス、神杯ニ成ベキハ必

浮ブ、其器ニ當ラザルハ悉ク沈テミクヅトナル、其故ヲ以神杯ヲ占ナフ也、是ヲ柏ノ神ト號ス、

〔節用集〕大器六財七盞七也云ノ同、小

〔書言字考〕節用集器七財七盞七者曰、醜口出根木猪口俗

〔和漢三才圖會〕庖厨具盞三十一音贊、醜同、和名佐賀都木、猪口盞俗、形似猪口故名、未詳、

按盞盃之最小者、俗云猪口盃、其甑反者名牽牛花形、大小有數品、今人冷飲用之、略下

〔倭訓栞〕中編十四ちよく、常に猪口と書り、或説に盞を鍾といふ、ちよんつうは鍾子也、今瓷器に

猪口